

平成 30 年 5 月 1 日

【照会先】(直通電話) 03-5207-2456

一般社団法人 日本フィットネス産業協会

専務理事 杖崎 洋

検定事務局 統括マネージャー にらさわ 蕪沢靖彦

第 1 回及び第 2 回フィットネスクラブ・マネジメント職種技能検定試験における 試験問題及び模範解答の誤りについて

この度、一般社団法人日本フィットネス産業協会が実施した第 1 回（平成 29 年 12 月 17 日実施）及び第 2 回（平成 30 年 2 月 25 日実施）のフィットネスクラブ・マネジメント職種技能検定試験において、試験問題及び模範解答に誤りがあることが判明したため、次の対応をとりました。

1 平成 29 年度第 1 回試験（1 級学科）

（1）経緯

試験問題作成に関して試験実施までの経緯は、以下のとおりです。

平成 29 年 10 月 27 日に技能検定委員に試験問題作成の依頼を行い、各検定委員が作成し、内容及び難易度を確認した試験問題及び解答を試験問題原稿、解答用紙原稿及び解答一覧表にまとめたものを、11 月 18 日から 11 月 21 日の間で、全体確認担当の技能検定委員が確認した。

11 月 22 日に、上記で確認された試験問題及び解答用紙を、委託先印刷会社に校正用の印刷を依頼し、11 月 29 日から 12 月 4 日までの間で、校正用の試験問題及び解答用紙を全体確認担当の技能検定委員 3 名で確認した。

12 月 5 日に、委託先印刷会社に試験問題及び解答用紙について、必要部数の印刷、梱包及び発送を依頼した。

この間の試験問題及び解答に関する確認が不十分であったため、今回の試験問題に関する誤りが発生した。

(2) 誤りの内容

- ア 「試験問題に明らかな誤りがあり受検者が出題の趣旨を理解することが困難である又は、受検者の誤答を誘発する」又は、「選択肢がないもの」に当たる誤り
(ア) 問 5 は 4 択の選択問題で、CSR (Corporate Social Responsibility) についての記述で、誤っているものの数を選択する問題です。CSR に関する記述が (a)～(e) の 5 つあるところ、問題文には (a)～(d) と 4 つに誤って記載している。
- (イ) 問 8 はグリーゾーン解消制度、健康経営及びメディカルフィットネスに関する 5 つの記述で、適切なものの数を選択する問題です。適切とした (b) の記述で、簡易キットと記載するところ、簡易キッドと誤って記載している。
- (ウ) 問 25 は 4 択問題で、最近の消費購買行動プロセスの変化についての記述で、正しいものを選択する問題です。問題文にて、変化する前の消費購買行動プロセスを AIDMA と記載するところ、IDMA と誤って記載している。
- イ 「模範解答が正答でないもの」に当たる誤り
(ア) 問 39 は文章への穴埋め選択問題で、正解③に対して、正解④と誤って採点していた。

(3) 対応

- ア 採点上の対応について
試験問題の誤りが受検生に与える影響に応じて、採点に関して次のように補正し、その誤りによって受検生に不利が生じないような措置を講ずる。
(ア) 誤りの内容が上記 (2) のアは、その問題を不成立として受検生全員に加点する。
(イ) 誤りの内容が上記 (2) のイは、正答に基づいて採点し直す。
- イ 合否見直しの対応について
(ア) 第 1 回技能検定 1 級学科試験の採点のやり直しの結果、この 1 級学科試験の受検者 116 名 (当日欠席者を除く) のうち、これにより加点された受検者は 116 人で、そのうち 11 名は 1 級学科試験で不合格であったものが合格点 (60 点以上) に到達しました。
その結果、11 名については、1 級学科試験について一部合格となりました。一部合格となった 11 名に対しては、当協会から個別に電話、郵送及びメールアドレスが判明する者にはメール送付の方法により、既に合否結果の訂正済です。また、105 名に対しても、当協会よりお詫びの文書の送付をもって訂正済です。

- (イ) 上記の1級一部合格(学科)11名を対象に、できるだけ早期に1級実技試験を実施することとします。
- ウ 誤りの公表について
本試験問題の誤りについては、当該検定のホームページ上で公表し、機会を捉えて、受検生及び関係者に広く伝えるように努めます。
- (4) 再発防止策
再発防止策として、今後このようなことがないように、以下の事項を徹底し、再発防止に努めます。
- ア 試験問題作成の手引きを作成する。
イ 技能検定委員会の開催頻度を増やす。
ウ 最終校正原稿について、作問委員、全体確認担当委員及び事務局にて、各役割に応じた査読を行う。
エ 試験実施までの作問スケジュールを整備する。

2 平成29年度第2回試験(2級学科・実技、3級学科・実技)

(1) 経緯

試験問題作成に関して試験実施までの経緯は、以下のとおりです。

平成29年12月25日に技能検定委員に試験問題作成の依頼を行い、各検定委員が作成し、内容及び難易度を確認した試験問題及び解答を試験問題原稿、解答用紙原稿及び解答一覧表にまとめたものを、平成30年1月18日から1月25日の間で全体確認担当の技能検定委員が確認した。

平成30年1月26日に、上記で確認された試験問題及び解答用紙を、委託先印刷会社に校正用の印刷を依頼し、平成30年2月1日から2月6日までの間で、校正用の試験問題及び解答用紙を全体確認担当の技能検定委員3名で確認した。

2月6日に技能検定委員会(試験問題作成・採点担当)が、最終校正した試験問題を最終承認し、2月7日に委託先印刷会社に試験問題及び解答用紙について、必要部数の印刷、梱包及び発送を依頼した。

この間の試験問題及び解答に関する確認が不十分であったため、今回の試験問題に関する誤りが発生した。

(2) 誤りの内容

ア 「試験問題に明らかな誤りがあり受検者が出題の趣旨を理解することが困難である又は、受検者の誤答を誘発する」又は、「選択肢がないもの」に当たる誤り

(ア) 2級学科試験で対象となる問題

- ① 問5は施設設備の点検周期を問う問題で、半年周期と記載するところ半

年周囲と誤って記載されている。

- ② 問 15 はスポーツ産業に関する 5 つの記述に関して、間違っただ内容の記述の数を問う問題で、選択肢 5 つの中で、(a) は調査のことを示すにも関わらず調査であることを示しておらず、また、(d)、(e) はそれぞれの調査か示していないため、適切な問題文となっていない。
- ③ 問 42 は犯罪系事案に関する文章の空欄 (ア) ~ (ウ) に当てはまる適切なものの組合せを選択する問題で、(ア) ~ (イ) と誤って記載している。
- ④ 問 47 は「サービスマネジメント」の著者であるアルブレヒトが定義している顧客価値の 4 段階を問う問題で、アルブレヒトが当該人物として特定し難い記載となっている。
- ⑤ 問 49 は景品表示法に関する文章の空欄 (ア)、(イ) に当てはまる適切なものの組合せを選択する問題で、(ア) と誤って記載している。

(イ) 2 級実技試験で対象となる問題

- ① 問 4 は労働契約と請負・委任契約に関する違いについて、(a) ~ (i) に当てはまるものを選択する問題で、(f) に当てはまる正答が、語群から漏れている。

(ウ) 3 級学科試験で対象となる問題

- ① 問 22 はトレーニングに関する (a) ~ (c) の記述で、不適切なものの数を選択する問題で、選ぶべき選択肢が示されていない。
- ② 問 24 はフィットネス産業業界の市場規模を選択する問題で、業界情報専誌によると、と記載すべきところ、情報業界専門紙によると、と誤って記載している。
- ③ 問 33 はクラブの発行する会員証に関する 3 つの記述で、不適切なものの数を選択する問題です。適切とした (a) の記述で、プログラムと記載するところ、ブラグラムと誤って記載している。
- ④ 問 46 は入会希望のお客様への応対に関する 3 つの記述で、不適切なものの数を選択する問題です。適切とした (b) の記述で、お客様に合ったと記載するところ、お客様に会ったと誤って記載している。
- ⑤ 問 55 は呼吸法に関する問題で、腹式呼吸と記載すべきところ、複式呼吸と誤って記載している。

イ 「選択肢が複数になったもの」に当たる誤り

(ア) 2 級学科試験で対象となる問題

- ① 問 25 は建物管理方針に関する記述で、不適切なものを一つ選択する問題で、適切な選択肢として作成した 2 つの選択肢に不適切な記述があり、問題が成立しない。

(イ) 3級学科試験で対象となる問題

- ① 問51は退会受付業務に関する文章の(ア)、(イ)に当てはまる適切なものの組合せを選択する問題で、問題文で選ぶべき選択肢が示されていない。

ウ 「模範解答が正答でないもの」に当たる誤り

(ア) 3級実技試験で対象となる問題

- ① 問2は見学中の応対に関する記述問題で、模範解答では4つの記述を正答としていたが、他にも2つ正答の記述があることが判明した。

(3) 対応

ア 採点上の対応について

試験問題の誤りが受検生に与える影響に応じて、採点に関して次のように補正し、その誤りによって受検生に不利が生じないような措置を講ずる。

(ア) 誤りの内容が上記(2)のア、イに該当する問題については、その問題を不成立として受検生全員に加点する。

(イ) 誤りの内容が上記(2)のウに該当する問題については、正答に基づいて採点し直す。

イ 誤りの公表について

本試験問題の誤りについては、当該検定のホームページ上で公表しており、機会を捉えて、受検生及び関係者に広く伝えるように努めます。

(4) 再発防止策

再発防止策として、今後このようなことがないように、以下の事項を徹底し、再発防止に努めます。

ア 試験問題作成の手引きを作成する。

イ 技能検定委員会の開催頻度を増やす。

ウ 最終校正原稿について、作問委員、全体確認担当委員及び事務局にて、各役割に応じた査読を行う。

エ 試験実施までの作問スケジュールを整備する。

以上